



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「我らは信じかつ告白す。旧新約聖書は、神の靈感により成り、キリストを証し、福音の真理を示し、教会の擲るべき唯一の聖典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救ひにつきて、全き知識を我らに与ふる神の言にして、信仰と生活の誤りなき規範なり」(「日本基督教団信仰告白」より)。

私たちはプロテスタント教会は、旧新約聖書が、神の靈感によって書かれ、私たちの信仰の誤りなき規範であることを、告白する。もちろん、その解釈をめぐる、神学的議論は激しくなされてはいるが、しかし、たとえ、それが、様式史批判や編集史批判、聖書の非神話化等々、神学の知識が増していこうとも、それは変わらず神の言に他ならない。どんな大神学者の言葉もすべては、神の霊の働きの下にあるものに過ぎないのだ。

聖書は、「すべて神の霊の働きの下に書かれています」(Ⅱテモテ3:16)。も

もちろん、私は、聖書に対する知的学問をすべて否定するものではない。また聖書の言葉はみな正しく、そのまま信じれば良いなどと、頭ごなしに命ずるものでもない。しかし、同時にしたり顔で、このテモテの時代には、まだ新約聖書は編纂されていなく、ここで「聖

瞑想

聖書はすべて神の靈感を受けて書かれたもので、人を教え、戒め、矯正し、義に基づいて訓練するために有益です。

書と訳されているギリシャ語原語『グラフィエ』は聖書の中の個々の文章(ただしこの用法は新約聖書には見出されない)あるいは聖書の箇所を意味する(「共同訳聖書注解」のだから、「旧新約聖書が神の靈感により成り」は疑いありなどと断じるものではない。

確かに人の知識は増し、知恵はより深まっていくだろう。しかし、それでもなお、人間は神の上に立つことはできない。確かに聖書の中には矛盾もあり、また時代の変化の中にあつて、その教えのそぐわないものもあるだろう。しかし、それでもなお聖書は、神の霊

主幹牧師 榎本 恵

Ⅱテモテ3:16(協)

感によって成ったものであり、信仰と生活の誤りなき規範なのだ、私は信じる。それをただ信じるのだ。父、榎本保郎は、聖書に聴く時の注意として、それを「自己弁護のために読むな」、「他者批判のために読むな」、「ただ自分に語りかけられた聖言として従いつ

つ読む」を強調した。自分の正しさを主張するためになく、また人を批判するためではなく、自分がそれに従うために読む。それこそがみ言葉に聞くことなのだ。先日、お会いした沖繩のサマリア人病院の田崎琢二理事長から、こんな言葉を教えていただいた。「理性優位、感性優先の医療」。医療という最もエビデンス(証拠)の求められる科学の領域にあつて、けれども、そこに人間の理性を超えた見えない働きのあることを知り、それを優先できる医療でなければならぬ。神の前に常に謙虚であること、それは、人は神の霊の下にあることを知ること、他ならない。まさに、その通りである。

友よ、どんなに知識が増し、知恵が深まったとしても、私たちはいつも、神の霊の下にある。聖書の語りかける霊の言に、素直に耳を傾け、「理性優位、感性優先」の霊的訓練をされるものとなるようよ。

二〇二四年の始まりの時に

榎本 恵

新しい年が始まりました。しかし能登半島地震、羽田空港事故など、年始早々思いもよらない出来事が続いております。またウクライナ、パレスチナの戦争は止まず、政治の腐敗や経済の混乱もまだまだ続いています。

このような世の終わりを思わせるような時代の中であって、私たちクリスチャンはどうか、生きていけば良いのか、それは、私たち共通の思いです。「マラナ・タ（主よ、来てください）」と祈る私たちにとって、今回の年頭アシラムのテーマ「5つの勧告」は明確な答えを与えてくれます。

「目を覚ましていない。信仰に基づいて

しつかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。何ごとも愛をもつて行いなさい」(1コリント16:13-14)。

アシラムセンターは来年2025年、開設50周年を迎えます。この節目の年を目指し、この「5つの勧告」を大事にしながら、その歩みを続けていきます。どうぞ、おぼえお祈りください。この不安と恐れの中にある時代にあって、主と共に、歩み続けて参りましょう。

(アシラムセンター 主幹牧師)

2024年
重は投げ落えた。
小羊の血と
証の言葉が打勝た

免

第三回 アドベントリトリート アシラムに参加して

横山 大輔

12月4日〜7日。滋賀県の信楽町でのクリスマスコンサートを終えて、ちょうどタイミングが合い、近江八幡にあるアシラムセンターに行き、リトリートに参加することができた。参加者が私たちだけではあったが、榎本牧師とアベルモン宣教師、またセンターの皆さんと良い交わりの時と、また聖書を静まって読み、黙想し、分かち合う中で、改めてこの忙しい師走の中でも、師、座す。マリアのように主の足元へと静まる中で、神様からの言葉と思いに心をむける。また、今の激動の時代、終わりの時代に必要なことは御言葉ご自身であるイエス様との出会いなのだ。

と祈りの中で思わされた。シメオンとアンナが待ち望んでいた救い主イエス様と出会ったように、私たちも聖霊によって、今の時代において、祈り、また神様の前に静まる時間が必要だと思った。

わたしは、正直、クリスマスの時期があまり好きではない。ゴスペルシンガーとなり、クリスマスにイエスキリストの恵みの福音を伝えるために全国各地を走り回ることが多い時期で、今まで何度も燃え尽き、心が落ち込んでしまうことがあった。

そんな時を何度も過ごした為か、もはやトラウマのようになっており、12月のクリスマスが来るのが傷になっっているのかもしれない。しかし、今回のリトリートを持つことで、改めて、神様の御言葉の前に静まり、黙想し、また神の家族の交わりの豊かさに励まされ、もう一度立ち上がり、恵みの福音を分かち合うことへの情熱と励ましをいただいたリトリートだったと思う。

3日目の夕方に、昼寝から目覚めてギターを弾き始めると、歌詞とメロディーが心に響いてきた。

でも、師、座す。マリアのように主の足元へと静まる中で、神様からの言葉と思いに心をむける。また、今の激動の時代、終わりの時代に必要なことは御言葉ご自身であるイエス様との出会いなのだ。

そんな時を何度も過ごした為か、もはやトラウマのようになっており、12月のクリスマス



早天祈祷会にも、ギターを背負って
哇道を歩き…讚美♪



「リトリートは本当に恵み深い時間でした！」クリスマスシーズン始めに、静まりの時を持てたことを感謝します…。

「静まりの中に
シメオンと」

アンナの祈り
作詞作曲 横山大輔

静まりの中に
あなたはおられるから
心を尽くして
主の御声を聞こう
静まりのなかで
主が語られるから
思いを鎮めて
主の幻を見よう
信仰によって
イスラエルの救いを見よ
聖霊によって
国々の救いを見よ
私たちに与えられてい
る御国を待ち望め

家族の救いを見よ

シメオンのように
イスラエルの
救いを見よ
アンナのように
夜も昼も 主を讃えよ

私たちに与えられてい
る御国を待ち望め
静まりの中に
あなたは来られるから
心を尽くして
主の御側で 祈ろう

日本の救いはどこに
あるのか、リバイバル
は、またイスラエルと
パレスチナの戦火の中、
私たちがどのような
にイスラエルの救いを
祈ればいいのか、イエ
ス様の再臨は…。
そんな中でも、シメ
オンのように、アンナ
のように、聖霊によつ
て日本の救いを祈り、
イスラエルの救いを祈
り、主の道を備え続け
ていくことを思わされ
た。

そして、使徒の働き
6章4節で『わたしは

ちは祈りと、みこと
ばの奉仕に専念しま
す。』と使徒たちが語つ
たように、自分も御言
葉と祈りに専念してい
くことを語られた。

時が来れば実現する
御言葉にひたすらに聞
き、イエス様の訪れを
待ち望み、祈るもので
ありたいと願う。
(ルカの福音書
2:28、30、31)

シメオンは幼子を腕
に抱き、神をほめたた
えて言った。

私の目があなたの御
救いを見たからです。
あなたが万民の前に
備えられた救いを。
(カンバーランド長老
キリスト教会高座教会
・音楽宣教師)

横山 和子

滋賀県信楽にある教
会でクリスマスコン
サートの奉仕があり、

その翌日からアシユラ
ムリトリートがあると
知った私たちは、もう

ギリギリだったので定
員が満たされているだ
ろうな、とダメ元の気
持ちで申し込みをしま
した。

すると恵先生からの
メールの返事に、今回
の参加者はお二人だけ
なのでゆっくりしてく
ださい、と書いてあり
ました。

ええっ！とびっくり
すると共に、自分達だ
けなのはちよつと寂し
いなあ、と感じまし
た。

しかし実際リトリ
トセンターに来て、シ
メオン黙想の家を貸切
でゆっくり休めて、恵
先生との学びや交わり
も二人占めできて、こ
れは神様からのクリス
マスプレゼントだ！と
感謝しました。

また、美味しい食事
も毎回用意していただ
き、心も体も満たされ

る時となりました。

アベルモン宣教師や
食事を用意して下さつ
た方々との交わりもと
ても恵まれました。

しかも、元々は一泊
して帰ろうかと考えて
いたのですが、初日に
恵先生から、木曜日に
クリスマス礼拝と祝会
があるから歌ってけれ
ない？と頼まれ、まさ
かの三泊となりました。
笑。

結果、忙しいクリス
マスシーズンに、主の
前に心を静める時間を
持つことができまし
た。恵先生の言葉を借
りれば、「師走」でな
く、「師座す」！

最終日には夫婦それ
ぞれにリトリートで感
じたことを歌った新曲
も与えられ、良い思い
出、祝福の旅となりま
した。

リトリート後も、夫
婦でルカの福音書を毎
日共に読み、「師座す」
の心でクリスマスシー

横山大輔・和子



くちなしの 花手向けたし 予期もせぬ 終り迎えし

人等の許に

小林佳子姉

歌集

であい

第二集より (東日本大震災の後に祈りこめて)

神様の不思議な導きで
出会いと御言葉に
力受け
これから進む
その先にも
イエス様が共にいる

滋賀県近江八幡の
アシュラムセンターに
来たよ
食べて 聖書読んで
休んで
心のリフレッシュ

鳥 とりと
鳥 とりと
鳥 とりと
鳥 とりと



夜、ダブルハウスにて。出来立てホヤホヤの讃美を披露♪♪

ズンを過ごせたことを
神様に感謝します！

鳥 とりと
鳥 とりと
鳥 とりと
鳥 とりと



神様ありがとう

(琵琶湖畔を歩いて
黙想している時に鳥を
たくさん見たので、「鳥
とりとり」という
歌詞になりました。と
りとりとりと、後ろ
から読んでも、とりと
りとりと。)
・(カンバーランド長老
キリスト教会高座教会
音楽宣教師)



2日目は、八幡山登り。さあ！いざ！
指南役はもちろん青木兄(左)。



愛さん会前のひととき。チャイム演奏&
横山ご夫妻の賛美♪皆の心にじんわりと。



リトリートアシュラム最終日は、恒例のクリスマス愛餐会。みんなのカフェち
いろば(京都)より大山シェフと悠子母が、美しく美味しいカナッペなど、手作
り下さいました！



みもとに...

倉田悦治兄 (改革派男山教会)

妙子夫人と共に5年ほど修道場隣の元牧師館に住み、センターの事、気遣って下さった。京都の男山に帰られてから受洗。妙子姉がいつも祈り仕えておられた。

2023年10月24日 召天

柳沢良男兄 (日基上尾使徒教会)

埼玉より東京聖書教室、日光オリーブの里アシュラムにご夫妻仲良くご参加下さった。足やお身体の痛みを抱えながらも穏やか且つ強い信仰でアシュラムを大切に守って下さり、感謝。

2024年1月2日 召天

いえじま 雑記8 「ちゅーばんじゃ」ってなんじゃ?!

今日はちゅーばんじゃマラソン大会。伊江島の幼稚園生、小学生が、近くの公園のグラウンドを走りました。大会といっても保護者が観にくるくらいのことなのですが、ここ数週間は毎朝登園するなりマラソンの練習をしていたそうです。

それにめっきりめけていたのは幼稚園生の長女で、新年に入ってから幼稚園に行ったのは数える程。そんな感じてしたからこちらも今日はお休みするだろうなと思って、のんびり構えていました。ところがどっこい、長女は今日に限って満面の笑みで朝起きてくると——その前の晩まで今日は学会の日だと思っていたようですが——、体育着に着替え、張り切って登園して行くではありませんか。どうやら練習は嫌いでもイベントごとは好きなようで、というか注目されるのが好きなのが、マラソンも、平日の午前中から集まった保護者たちの応援を背に、颯爽と走っていました。順位は中の下といったところですが、もちろんそんなことは気になりません。調子がいいというのか、天然なのか、ゆるがないというのか。そんなこちらの想像を簡単に超えてくる彼女を見ながら、僕も走るの遅かったなあと思ったり、幼稚園には行きたくなかったなあと思ったり。これも神の不思議でしょうか。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)



くちなしの 香り入りくる 北の窓 東日本の労苦ものせて

梅雨明けの 夕焼け空を見上げつつ ブラジルにゆきし師のため祈る

*水野源三 第二詩集「あゝ榎本保郎師より」



『わが恵み 汝に足れり』

*水野源三第一詩集
(1975年2月 アシュラムセンター発行)
—おわりに— (あとがきの一部)

榎本 保郎

“新聞のにおいに朝を感じ
冷たい水のうまさに夏を感じ
風鈴の音の涼しさに夕ぐれを感じ
かえるの聲ははっきりして夜を感じ
今日一日も終りぬ
ひとつの事ひとつの事に神様の恵みと愛を感じて”

すらすらとうたわれた「今日一日も」という詩の中に、珠玉のような信仰がうかがわれる水野源三さんの詩。日頃深い共感を覚えていた私は、この人が28年間寝たきりの人であることを知り、毎月いろいろな雑誌に投稿される水野さんのうたに驚きにも似た感動を感じるようになりました。そして長い間、この人の詩がまとめられて世に出ることを願っておりましたが、このたびはからずも、私がそのお世話をさせていただくようになり、多くの方々の御協力によって、その第一集が世に出ることになりました。きっと多くの人々の心に光や慰めを与え、神様のご威光のために用いられることと信じて感謝しております。

出版のお世話をするからには是非一度お会いしておかねばと思い、今年の1月6日、坂城まで出かけて行き、源三さんやお母さん、妹さんの林久子さん、弟さん御夫妻にお会いしてきま

した。

かつて私は野尻湖畔で、路傍にひっそりと咲いていた一輪のききょうの花を見て、しばしそこをはなれることができなかつたことがありました。水野家を訪ねた時、ふとかつての時のこの経験を思い出しました。聖書に、議会にひきずり出されたステパノの顔は天使の顔のように見えたことと記されてありますが、耳は聞こえても、口がきけず、手足が麻痺して28年余、6畳の部屋をわが世界として生きて来た、そしてこれからも生きて行かねばならぬ源三さんですのに、その顔は、まさに天使の顔のように見えました。彼を訪ねて来た或る人が道行く人から「源三さんは私たちの町の宝です」と聞かされたそうですが、神様はこのような彼を今日の時代に「宝」として生かしておられることを見、御名をほめたたえずにはおれませんでした。

1975年2月4日

今回は第二詩集あとがきの続き、榎本和子姉による「おわりに」補記（保郎師は二集発刊前に召天）



あとがき

2024年始まりとともに、能登半島地震が、私たちの正月気分を吹き飛ばしました。今もなお、行方不明者の捜索が続き、停電断水が、被災者の皆さんを苦しめています。道路やインフラの復興は、おそらくこの2月号が届く頃はまだ復旧してないだらうと思われれます。彼の地の惨劇を見るたびに、本当に神様はおられるのかと天を仰ぎ眩みます。しかし、主は生きておられます。そして悲しみと苦痛の中にいる人を決して捨て置かれませぬ。アシュラムセンターにも、能登半島の羽咋市に住常任運営委員の一人がいます。また、金沢アシュラム、富山アシュラム、そして新潟アシュラムの友が大勢おられます。幸いなことに、深刻な被害を受けた方はおられませんでしたが、それでもなお、多くの人々が、この寒空の中、厳しい現実の中におられます。センターも今後、その支援のために、「ヨセフ基金」また実際の働きを通して、何かお手伝いができればと思っております。どうか、お祈りください。(恵)

塚田安紀子姉（長野・坂城在住、10年前修道場アシュラムご参加）より、本2冊の贈り物。うち1冊は、なんと！水野源三詩、林久子文『悲しみよありがとう』（日本キリスト教団出版局）文中には、保郎師との出会いの様子も…。感謝です！

恵師 2/5 ~ 3/1 まで
ブラジル伝道の旅のため、各集会はお休みです。
早天祈祷会は、センターより配信。(火~土・AM6:30~)
参加できる時もあり。(Zoom)

2月3月始めの聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

2(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00) 3、4月は休み
10(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
3/5(火)	新規Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
3/16(土)	加古川祈りの家 (小林姉宅 PM1:00)

2月のアシュラムなど

2月12(月)~14(水)	ルーヂラムス教会アシュラム (ブラジル) 奉仕者 榎本 恵師
2月19(月)~21(水)	第41回 台湾愛修会 主題: 主的疼疼到底 (ヨハネ福音書13:1) 会場: 烏山頭湖境會館 アシュラムセンターより齋藤篤師がご奉仕下 さいます。申し込みはインターネットで。お 問い合わせはアシュラムセンターへ。

3月以降のアシュラム予定

4月29(月・休)	阪神一日アシュラム
6月	三重アシュラム
6月23日前後	沖縄巡礼の旅

榎本和子姉召天記念会のご案内とお願い

2024年4月6日(土)に京都葬教会をお借りして榎本和子姉召天記念会を行います。

多くの皆様にお越しいただきたいと存じますが、座席には限りがございますので、お越しの方は事前にアシュラムセンターまでご連絡ください。

YouTube「ちいろばチャンネル」にてLIVE配信も行いますので、遠方の方はそちらをご覧ください。

【プログラム】

- 第1部
12:30 会場
13:00 ~ 13:45 記念会礼拝
13:45 休憩
- 第2部
13:50 ~ 15:00 榎本空講演会
- 第3部
15:00 ~ 15:50 茶話会



大好きな讃美歌を歌う和子姉。(掃除ご奉仕の市橋恵子姉と。)



12月、るつこ姉の長年の信仰の友、
中原牧子、晋太郎親子が、沖縄より、シメオン黙想の家、
ラビリンス、そして念願の早天祈祷会に！
沖縄巡礼の旅、聖書教室での再会を楽しみに。

みことば



ツバキのつぼみ
Wハウス

日本基督教団仙台宮城野教会牧師
アシュラムセンター協力牧師
齋藤 篤

ここに愛があります。

ヨハネの手紙一 4章10節後半

毎月一回、近隣にあるキリスト教主義の中学・高校の礼拝説教を担当しています。つい先日、宗教主任の先生から2月の礼拝奉仕の打診があり、候補日のなかから私が選んだのは、14日の水曜日でした。「バレンタインデーですね!」との返事。「では、バレンタインの話でもしますね」とお返事を書きました。

皆さんもご存知の通り、バレンタインはカトリック教会の司祭であり、後に聖人とされた人物です。諸説あると言われてはいますが「恋人たちの守護聖人」として知られている背景には、恋人たちのあいだに芽生えた「愛」を、大切に守り抜いたことに由来していると言われています。決してチョコレートの日ではないと言えば、今や日本中のチョコレート製造業者を敵に回してしまいそうですが、こういう日を通して、本物の愛とはどこにあるのかについて、じっくりと思い巡らす時であって欲しいなと思うばかりです。

そして、今年2024年の2月14日は「灰の水曜日」であり、ここから四旬節(レント)が始まります。教会にとってイースターに先立つ大変重要な46日間を、私たちは迎えます。ドイツでは、この時のことをFastenzeit(断食の時)と呼んでいる通り、何かを断つことによって、自分自身のうちにある罪と向き合う時期とされています。多くのドイツ人は、大好きな「チョコレート」を食べるのを控えているのをよく見かけました。バレンタインにチョコを贈る習慣がドイツになくて、本当に良かったなと思ったり…笑。

しかし、私は思うのです。四旬節は自らの罪を見つめる以上に、主イエスが私たちのために示してくださった「愛」をいつも以上に想う時なのだ。ここに愛がある。ゆえに私の心は愛によって揺さぶられ、愛の道へと揺り動かされる。そんな2024年のバレンタインデーを過ごしたいと心から思ったのでした。

センター聖書教室、一月より箴言に。早天祈祷会は申命記に。(どちらもZoom参加OK)(早天に石川県の方お二人ご参加) 肉体は日々衰えていきますが、みことばによって日々新たにされ、どんな事も主による解決があることを信じ、祈ってまいります。

月と覚あや感涙と込めなすら
祈りなさい。コロサイ四:二

榎本和子